ヒマラヤ登山・シンポジウム（無料）のご案内

社会人山岳会混成チーム　『世界三大峰挑戦の背景と意義』

日本のアルピニズムが最も高揚し、日本のヒマラヤ登山が大衆化した時期とも言える１９７３年～１９８１年に「社会人山岳会を核とした混成チーム」が、世界三大峰（エヴェレスト、Ｋ２、カンチェンジュンガ）を舞台に、困難な目標に挑戦しました。
「課題解決型」とも言えるその挑戦は、それぞれの当事者たちの意識にはまったくなかったものの、偶然にもまるでオリンピックのように４年ごとに実践されました。

日本山岳文化学会（ＪＡＭＣ）では、その挑戦から一定時間が経過した今、「挑戦の背景と意義」をあらためて当事者が発表し取り纏めることによって、この時代のヒマラヤ登山の一面を後世に残しておくことを目的に、シンポジウムを企画いたしました。

参加費は無料となっておりますので、ヒマラヤ登山に関心をお持ちの皆様、登山愛好者の皆様多数のご参加をお願いいたしたくご案内申し上げます。

記

１．**開催日時：２０１０年１１月２８日（日）９時～正午**
　　「日本山岳文化学会大会・「シンポジウム」（主管：ヒマラヤ登山分科会）
２．場　所：東京慈恵会医科大学・高木会館２号館南講堂（地下）
　　［東京都港区西新橋３－１９－１８］　**最寄り駅：ＪＲ新橋、地下鉄御成門**
３．**参加費：無　料　［但し、日本山岳文化学会会員は参加費３５００円が必要です］**
４．時程・チーム名・発表者など：　　［途中入退場自由］
　　9:00 座長挨拶
　　9:05　シンポジウムの目的について　　［日本ヒマラヤ協会・尾形　好雄］
　　9:25　ＲＣＣⅡ隊　「エヴェレスト南壁１９７３年秋」　　［須田　義信］
　　10:10　日山協隊　「Ｋ２南東稜（Ｋ２第二登）１９７７年夏」　［重廣　恒夫］
　　10:55　ＨＡＪ隊　「カンチェンジュンガ縦走１９８１年春」　［山森　欣一］
　　11:35　シンポジウムのまとめ　　［ヒマラヤ登山分科会・八木原圀明］
５．方　法：三チームの発表形式　［パネルデスカッションは行いません］
６．**定員：１００名**　［先着順・定員になり次第締め切らせていただきます。お申し込の方は当日会場へお越し下さい。満員の場合はお断りの連絡を致します］
７．参加申し込み・問い合わせ先：
　　住所・氏名・年齢・性別を明記して、ハガキまたはE-mail にてお申し込み下さい

〒３４３－０８０７　埼玉県越谷市赤山町２－３８－９　中岡久気付け
日本山岳文化学会シンポジウム係　　E-mail:hisa-n@fine.ocn.ne.jp